

岡山県方言の研究 (6)

——新見市坂本方言における「ジャ」の用法について——

友 定 賢 治

はじめに

本稿も新見市坂本方言の記述である。

筆者が現在進めている仕事の一つは、特定共時態方言の徹底した記述である。筆者の郷里であり、岡山県北西部の中国山地にある小さな農業集落、新見市坂本方言を対象としての記述を深めたい。本稿では助動詞「ジャ」を取り上げるが、助詞・助動詞の用法の全容を記述することを当面の目標にしたいと考えている。

『日本語地図』、『方言文法全国地図』の刊行は、全国の状態を視野に入れることを可能にし、特定共時態の表現法記述にとっても貴重な資料を提供してくれる。全国の様子が見えるからこそ、特定共時態の徹底した記述が要求さ

れると思う。徳川宗賢氏は

『方言文法全国地図』を土台にした、地域を限定し、ただし調査地点や調査項目の網目を格段に細かくし、詳しく深い調査が行われることが、ぜひ望ましい。各地の在住者は、自分の住む地域で調査するのにふさわしい項目が、この地図の中から容易に拾い出せるはずである。

さらに、定点観測的な一地点の文法を深く掘り下げ、調査が行われれば、まことに喜ばしい。

と述べておられる。(注)

断定の助動詞に関して、一例を挙げてみる。『日本語地図』(Fig. 46)には、「いい天気だ。」の「だ」に相当する部分の地図があり、全国の状況が見渡せるものの、これは、あくまでこの質問文についての結果であり、断定

の助動詞の全容が分かるわけではない。たとえば、徳島県には凡例が「助動詞なし」となっている地域があるが、このような言い切りの表現法は、当該地域では「イー テンキ ジョー」といった言い方になるということである。また、質問文が仮に「明日はいい天気だろう。」（「だろう」も断定の助動詞に含めて考えることとする。）であつたら、「ダロー」という回答が多いであろうし、「昨日は雨だつた。」であれば「ジャツタ」が多いであろう。（注²）また、話者を女性としたばあい、「イー テンキダ。」という言い方は、たとえば東京で行われているのだろうか。

ある語の用法については、一枚の言語地図には限定された情報しか無いのだと考える。その地図のもつ意味を明確にするためにも特定共時態の表現法を詳しく見ていくこと（注³）が大事になると思うのである。改めて言うことでもないが。

断定の助動詞は重要な項目だけに、先行研究も当然ながら多い。それらをまとめて見ていくことは省略し、論を進めていく上で必要なものだけに言及する。

(一)

本稿は、新見市坂本方言の「ジャ」を、共通語の「ダ」と比較して記述するという方法によって、当方言の「ジャ」

の特徴を明確にしようとするものである。ある文に用いられた「ジャ」を共通語訳するとき、用法とか話者を考えると、そのまま「ダ」にするのは共通語として不自然である場合がある。

○ キョーテー モンガ デルジャ。（老女↓幼児）

これをそのまま共通語訳すれば「こわいものが出るだ。」となるが、共通語の言い方ではない。「出る」に「だ」が直接することもないし、「出るんだ」としても、単なる説明になつてしまい、右記の文とは意味が異なる。当方言にも「キョーテー モンガ デルンジャ。（内省）」という説明の言い方がある。右記の文は、説明ではなく、幼児に向かつての脅しである。共通語訳すれば、「こわいものが出るぞ。」とするのがびつたりする。この例から見ても、当方言の「ジャ」と共通語の「ダ」とは完全にイコールではないのである。

そこで、「ジャ」の用法を、共通語「ダ」と同じだと思われる用法、つまり、そのまま「だ」に訳せるものを「共通語用法」、そうでないものを「特異用法」と二分して、その具体的な様相をまとめていきたい。

なお、考察に用いる資料は、これまで機会あるごとに収集してきた自然傍受によるものを中心し、その他に、『岡山県方言の研究（3）』（5）』（ともに自家版）として発表した自然談話資料も用いる。また、郷里方言であり、内省

も可能である。

(二)

最初に、「ジャ」を共通用法、特異用法に分けて整理した一覧表をあげる。表示した後で、それぞれについての具体的説明を加えることにする。

《共通用法》

| | | |
|--|---|----------|
| 男性・女性に共通の用法 | 男性・女性に共通の用法 | 女性に共通の用法 |
| (1) 従属節内用法 (2) 接続詞 (3) 伝聞用法 (4) 過去・完了用法 (5) 連体形用法 (6) 仮定形「ナラ」 (7) 文末詞のついた用法の一部 (8) 終止形用法 推量形用法 | (1) 終止形言い切り用法 (2) 推量形言い切り用法 (3) 間投助詞の用法 | |

《特異用法》

| 特 異 用 法 | | | | |
|----------------|--------|--------------------------------------|---|------------|
| 副助詞的用法 | 感動詞的用法 | 文末詞用法 | 助動詞用法 | |
| ジャコトナ ジャコトノ | 応答詞 | (2) 用言+「ジャ」+ 「文末詞」 (1) 用言+「ジャ」 | (6) 文末詞とのまとまりで捉えるもの 動詞 (5) 用言+「ジャ」(では) (4) 用言+「ジャ」+助詞・助 (3) 仮定形「ナラ」用法の一部 (2) 「ジャ」と長呼する用法 (1) 「テジャ」敬語法 | 男性・女性ともに使用 |
| | 応答詞 | | | 男性使用 |
| | 応答詞 | | (3) 長呼用法 (2) い切り用法 (1) 終止形推量形 | 女性使用 |

(三)

まず、共通用法について説明していく。そのまま「だ」に置き換えても共通語として不自然ではないとされるものである。

〔1〕男性・女性に共通の用法

「男性・女性に共通の用法」とは、方言言の男女話者ともに、また、共通語でも男女話者ともに、以下のような用法はみられるということである。

(1) 従属節内用法

○クサー カリョーテ キツタンジャロー ユータ
デ。(章を刈つていて《指を》切つたんだろうと言つたよ。 中女↓中女)

○エリヤー ヒトジャ ユータケー イカナンダン
ジャ。(すごい人だと言つたから行かなかつたんだ。

中男↓中女)

当方言においても、格助詞「と」のない言い方が普通で、「キツタンジャロー ユータ」「ヒトジャ ユータ」となる。

(2) 接続詞

○ジャケー ワシラー カネモーキヤー デキンノ
ジャ。(だから私は金儲けはできないんだ。 中男↓老男)

○ジャケード チーター ノンデンナケラニヤー ミ
ンニヤー キラワリヨ。(だけど少しは《酒を》飲
まれないと皆さんに嫌われるでしょう。 中女↓青男)

(3) 伝聞用法

○ヒーサ ナンギュー シタンジャソーナ ナー。
(長い間難儀をしたんだそうだねえ。 老女↓老女)

○テョー デヤータリ シタンジャソーナ デ。(手
を出したりしたんだそうだよ。 中男↓中男)

(4) 過去・完了用法

○コトシヤー エー ボニジャッタ。(今年はいい盆
だった。 老男↓老女)

○ヨーサリノガ ゴチー ヤツジャッタ。(夜の《雷》
がすごいやつだった。 中男↓中男)

(5) 連体形用法

○ジマンナンジャロー。シタノコガ。イシャジャケー。
(自慢なんでしょう。下の子が。医者だから。 中女↓中女)

○ジャマナ トキニヤー シカッター ヨー。(邪魔
なときには叱つてね。 中女↓中女)

(6) 仮定形用法

○アエーデモ ナオルモンナラ ナー。(あれでも
《病気が》回復するものならねえ。 老女↓老女)

願望をあらわしている。

○ハヤンナラ オキニヤー。(《出るのが》早いのなら起きないと。 中女↓青男)

条件をあらわしている。

(7) 文末詞のついた終止形用法

○ハヨーカーラ ショワー ヤキョールンジャ ナー。

(《朝》早くから精出しているんだねえ。 中女↓青男)

○コトシャー ナンニモカニモ ヨー ニヤンジャ

ノー。(今年は《稲は》どれもこれも良くないんだねえ。 中男↓中男)

(8) 文末詞のついた推量形用法

○エツト イルンジャロー ナー。(《学費が》たくさん要るんだろかねえ。 中女↓中男)

○ナンデ マー ミヤーニチミヤーニチ アチンジャ

ロー カノー。(どうしてまあ毎日毎日暑いんだろかねえ。 老男↓老女)

〔2〕男性に共通の用法

これは、当方言では男性に限らず用いられるが、共通語においては男性のみが用いる用法で共通するものである。

双方の男性話者に共通した用法と言うわけである。

(1) 文末詞のつかない終止形言い切り用法

○コッチジャ。コッチジャ。コッチジャ ガナ。(こつちだ。こつちだ。こつちじゃないか。 老男↓老女)

○アノ エモ コビー モンバージャ。(あの家もけちな者ばかりだ。 老男↓老女)

(2) 文末詞のつかない推量形言い切り用法

○アシタリカラー シゴトジャロー。(明日からは仕事だろ。 中男↓青女)

○シロイシジャー エリヤー エツトモ モロートラノジャロー。(《勤め先が》白石《石灰岩採掘工場》では、そうたいして《給料を》貰っていないだろう。 中男↓中女)

(3) 間投助詞的用法

○マー シェーニジャ。ギョーサン モローテモ ジキ ツコーテ シマウンジャ。モチツケン モナー。

(まあそれにだ。《補償金を》たくさん貰ってもすぐに使ってしまうんだ。《ふだんお金を》もちつけない者は。 中男↓中男)

この用法は、ごく稀にしか聞くことができない。

(四)

次に特異用法を説明していく。当方言には見られるものの、共通語にはない用法のことである。実に多彩な表現を支える「ジャ」のすがたが明らかになるはずである。なお、断定助動詞の特異用法というのは、当方言に限ったことで

はない。各地方言の使用実態との比較を進めて行きたいと思ふ。

〔1〕 助動詞用法

(1) 男性・女性ともに使用の特異用法

当方言では男女ともに使用する、共通語にはない用法ということである。

① 「テジャ」敬語法

○ヨーニ ミカワツトツテジャ ナー。(すっかり見変わっておられるねえ。 中女↓青男)

○モー ヒーサ ニョーテンジャロー。(もう長い間《病気で》寝ておられるんだろ。 老男↓老女)

○チキヤー トケー オツチャツタホーガ オヤー アンキナケー。(近いところへおられた方が親は安心だから。 老女↓中男)

当方言においては、きわめて優勢な日用の尊敬表現法である。若年層では使われなくなっているものの、老・中年層においては頻用される。

② 仮定形「ナラ」の用法

○ドギャンコトー ハツタンナラ。ウゲトルガ。(どんな具合に貼つたんだ。はげてるけど。 中男↓中女)

○マーマー ナンチュー コトナラ。(まあまあ何ということなの。 中女↓少女)

○ナンナラ。ソノクリヤーナ コトカ。(なんだ。

そのくらいのことか。 中男↓中女)

待遇品位は低く、ややぞんざいな表現であるだけに、男性のほうに多用されるが、これも頻用される。

③ 「ジャー」と長呼する用法

○コノヘンジャー ヒラメジャー ヒラメジャー ユーケー ノー。(このあたりでは《いわなを》ひらめだひらめだと言うからねえ。 老男↓中男)

○アレジャー コレジャー ユーテモ オエンモナー オエンノジャケー。(あれだこれだと言つても駄目なもの駄目なんだから。 老女↓老女)

「体言(相当のもの) + 『ジャー』」で、並列の表現である。長呼しない言い方「ヒラメジャ ヒラメジャ」を仮に考えてみると、これは、目の前にいる魚を見て断定するときなどの言い方である。長呼すると、並列するという意味合いが強くなる。「アレジャー コレジャー」はありえども、「アレジャ コレジャ」という並列の言い方はない。

○イソガシーケー エーカゲンゴトジャー。(忙しいからいいかげんなことだよ。 中男↓中男)

これも長呼しない言い方「エーカゲンゴトジャ」では断定に止まるが、長呼することで、相手に持ちかける気持ちが強まる。

○ナカッタ フージャー ヤ。(無かった様子だよ。 中男↓老女)

これらの短呼形はない。ただこれは、「ジャ」の長呼形ではなく、文末詞「わいや」の音変化形と考えるべきかもしれない。

④ 用言十「ジャ（では）」

○イマカラ イクジャー ニャー。（今から行くんではないよ。老女↓中男）

○クワンデモ エージャー アルガ。（食べなくてもいいんではあるが。老男↓老女）

⑤ 用言十「ジャ」＋助詞・助動詞《文中用法》

○ダマツテ ノムジャケー マー テャー イラナー。（黙って《酒を》飲むんだから、まあ手はかからないわ。中女↓中女）

○ワガ サミージャケー オービユー タキヨール。（自分が寒いものだから大火をたいている。老女↓老女）

⑥ 文末詞と一体化した用法

○ハヨー オキンケージャ ガナ。（早く起きないからじゃないの。中女↓青女）

○イタシュー ナルホド ノムケージャ ガナ。（苦しくなるほど《酒を》飲むからじゃないの。老女↓青男）

○ミガラガ サミーケージャ ガ。（体が寒いからよ。中女↓青女）

「ジャガナ」の共通語訳を「じやないの」としている。「ガナ」にそのまま該当する共通語文末詞はなく、「ジャガナ」というまとまりとして最も当てはまるのは、この言い方である。「ジャガ」は、「よ」とすれば良いであろう。これらは、いずれも文末詞と一体化して特定の表現を作っているものとされる。

(2) 女性使用の特異用法

当方言では女性が使用するものの、共通語にはない用法である。

① 終止形言い切り用法

○アメジャ。ヒトルノニ ヌレテ シマワー。（雨よ。乾いているのに濡れてしまうわよ。中女↓青女）

○キョージャ。キョージャ。（今日よ。今日よ。青女↓青女）

○カワエーラシー カオー シトンジャ。（可愛らしい顔をしているのよ。青女↓青女）

当方言では、女性でも「ジャ」で言い切る用法はごく普通である。共通語では、女性は「だ」で言い切ることはないのか。ただ、「ソーナンダー」と、納得するときにつかうことはある。

金田一春彦氏は『日本語 下』（岩波新書 p213）

で、女性が「だ」を避けることについて次のように述べている。

なぜ女は「だ」を避けるか。これは「ダという助動詞をさける」と言つては正しくない。「だ」という助動詞が語形変化をする。そのうちの終止の形の「だ」を避けるのである。「だ」という助動詞は、連体の形と終止の形がちがう唯一の単語である。「だ」というといかにもセンチメンスが終止した感を与える。だから、これを避けるので、これも、終止の形を避けるあらわれである。

さらに、吉田金彦氏は『現代語助動詞の史的研究』（明治書院 p391）で、次のように述べている。少し長いが引用する。

次に「だ」の語感であるが、「だ」は自分のことについて強く断定的に言つたり、独り合点したりするときというものであるから、無感覚・無表情であつたり、また無遠慮でぶつさらぼうな感じであつたりする。これがまたひいては乱暴粗野に聞えることもある。これは単独に使われた「だ」、つまり終止形「だ」について特にそうなのである。「だ」が付くと文が終止する、はつきりと切れた感じを与えるので、女性には「だ」の使用を避けるのだといわれている（金田一春彦『日本語』172ページ）。「だ」の持つ無表情な断止表現の語感がそうさせるのであろう。怒り気味や軽蔑の感情の時、強く主張したりする時に戯曲の会話ではよく

使う。これは「だろう」でも同じことで、例示するまでもあるまいと思う。終止形「だ」だけでは、他のニュアンスを本来伴わないものであつたが、その発音から右のようなことになつたものであろう。谷崎潤一郎も「簡単にいへば『だ』止めが簡単であり、力も強いが、その代わり音がキタナイ」（現代口語文の欠点について）『改造』昭和4年11月）といわれている。そういう所からして、単独の「だ」は女性には使われないのであり、（以下略）

②推量形言い切り用法

○ナンデ メンジャロ。 (何でもいいんでしょ。青女 ↓青男)

○コリヤー クイワケジャロー。 (これは食べさしでしょ。中女 ↓青女)

○ドコズ エートルンジャロー。 (どこかに置いてるんでしょ。老女 ↓中男)

この①、②は、話者が男性であれば共通用法になるが、女性だと共通語にはない用法である。共通語訳も「〜よ」、「〜でしょ」とした。

③「ジャー」と長呼する用法（文末のゆすり音調）

○モー ヨーニ イガンデ シモートンジャー。 (もうすつかり曲がつてしまつてるのよ。中女 ↓中女)

○マゴノ ウンドーキヤーエー イットツタンジャー。

(孫の運動会へ行ったのよ。老女↓中男)

○ハイシャー キライジャー。オバーチャン。(歯医者
はきらいよ。おばあちゃん。老女↓幼児)

この用法は女性だけにみられる。

〔2〕文末詞的用法

(1) 男性・女性ともに使用

①用言十「ジャ」

○キョーテー モンガ クルジャ。(こわいものが来るぞ。老女↓幼児)

○イマ デリヤー サミージャ。(今外に出れば寒いぞ。中女↓幼児)

○マー シエーデモ アリヤー コラエルジャ。(まあそれでも有れば我慢しなきゃなるまいね。老男↓老男)

○エロー モロートランノニ スルジャ。(たいして《給料も》もらつてないのに《よく仕事を》するんだよ。中男↓中男)

用言に直接するかたちで、文末詞化しているものである。「おどし」「あきらめ」「皮肉」など(用例順)、話者の感情が表明されている。

②用言十「ジャ」+文末詞

○マー ドギヤー ショー ニー。スルジャガ。
(まあどうなるものかね。やらなけりや。中女↓中女)

○トシガ ヨリヤー イクジャ ワエー。(年が寄れば行かなきゃしようがないわね。中女↓中女)

以上の2例文は、①と同様に理解できるものである。

「あきらめ」の気持ちが表現されている。

○ドケー イクジャ ヤ。(どこに行くの。)《内省》

これは、「ドケー イクンジャ ヤ。」《内省》と、ほぼ同様に単純な問いかけとして用いられる。

〔3〕感動詞的用法

(1) 男性・女性ともに使用

○ジャ。ソー イヤー ソージャ。(そうだ。そう言え。中男↓中男)

○ジャジャ。ヤセトツタケー ナー。(そうだそうだ。痩せてたからねえ。青女↓青女)

男女ともに頻用する、肯定の応答詞である。

(2) 男性使用

○ジャチ。ホンニ コビー モンゾ。(そうだよ。本当に細かいけちな者だぞ。中男↓中男)

○ジャチャ。ワシガ トーカラ ヨータローガ。(そうだつて。僕が前から言っていただろ。青男↓青男)

文末詞のついたもので、男性に用いられる。

(3) 女性使用

○ジャワー。サミーケー ナー。(そうよね。寒いからねえ。中女↓中女)

○ジャワー。イナゲナ モンジャツタケー ナー。

(そうよね。おかしな者だったからねえ。中女↓中男) 同様に文末詞のついたものであるが、女性に用いられるものである。

〔4〕副助詞的用法

(1) 男性・女性ともに使用

○シキモ センジャコトナ ユーナ。(《結婚》式もしないなんて言うな。中男↓青女)

○オーサカジャコトノ ヤメンシャー。オレリヤーヘンケー。(大阪なんて《遊びに行くのは》やめなさい。おられはしないから。老女↓老女)

この「ジャコトナ」、「ジャコトノ」については、拙稿「岡山県方言の研究(2)——副助詞『ヤコー』とその周辺——」(『国語表現研究』第5号 1992・3)に詳しく述べたので、参照願いたい。

(五)

次に、当然のことながら、共通語にあつて当方言にはない用法も存在する。それを見ていこう。参考にするのは『日本文法大辞典』である。これにのつている「だ」の用法で、当方言にはない用法をあげ、当方言での言い方を示す。

| 共通語の用法 | 当方の言い方 |
|---|--|
| ① 子供ばかりだとバカにされる ② 先生だつて人間だものまちがい はあるさ ③ 泳ぎに行くのならばつて行くこ うかな ④ だつてまだ習っていない問題だ もの ⑤ まだ帰れないの？ならお先に失 礼 ⑥ 風邪気味なので休みます ⑦ あの人が人格者なものか | ジャツタラ・ナラ ジャユエテモ ナラ 接続詞(ヘーデモなど) ホンナラ ジャケー である |

おわりに

このように見てきて、当方言における「ジャ」の実に多様な用法と、盛んに用いられる様子を知るのである。それだけに、「や」への変化といったことも伺えない。当地は中国山地の奥深いところで、山陰方言との接触地帯でもある。少し北はすでに「だ」を用いるところである。そして、そこは自分たちの言葉とは違って、「だ」を使うという、はつきりとした境界意識があり、言語圏が異なるとしてい

る。「ジャ」と「だ」が、その指標として明確に意識されているのである。

なお、岡山県における断定の助動詞の分布に言及したものとして、言語地図集以外に、次のものをあげておかげにならない。

・今石元久「兵庫岡山両県地方方言の研究―断定の助動詞の分布について―」〔国文学攷〕第48号 1968・10)

・今石元久「東『中国山地』域の方言事象分布の研究―断定法項目のものなどについて―」〔方言学論叢1〕三省堂 1981・6)

・虫明吉治郎「断定の助動詞ダ・ジャ・ヤの分布―岡山県境付近の場合―」〔日本方言研究会第15回研究発表会 発表原稿集〕1972・10)

(注1) 徳川宗賢「方言文法全国地図」への期待」〔日本語学〕11・6 1992・5)

(注2) 上野智子「阿波方言の断定辞『ダ』『ジャ』『ヤ』」〔方言研究年報〕第28巻 和泉書院 1985・12)

(注3) たとえば筆者は、『方言文法全国地図』第1集の、F ig 54「傘なんかいらぬ」で地図化されている、副助詞「ヤコー」について、当方言での用法を詳しく報告したことがある。拙稿「岡山県方言の研究(2)―副助詞

「ヤコー」について」〔国語表現研究〕第5号 1992・3) を参照願いたい。